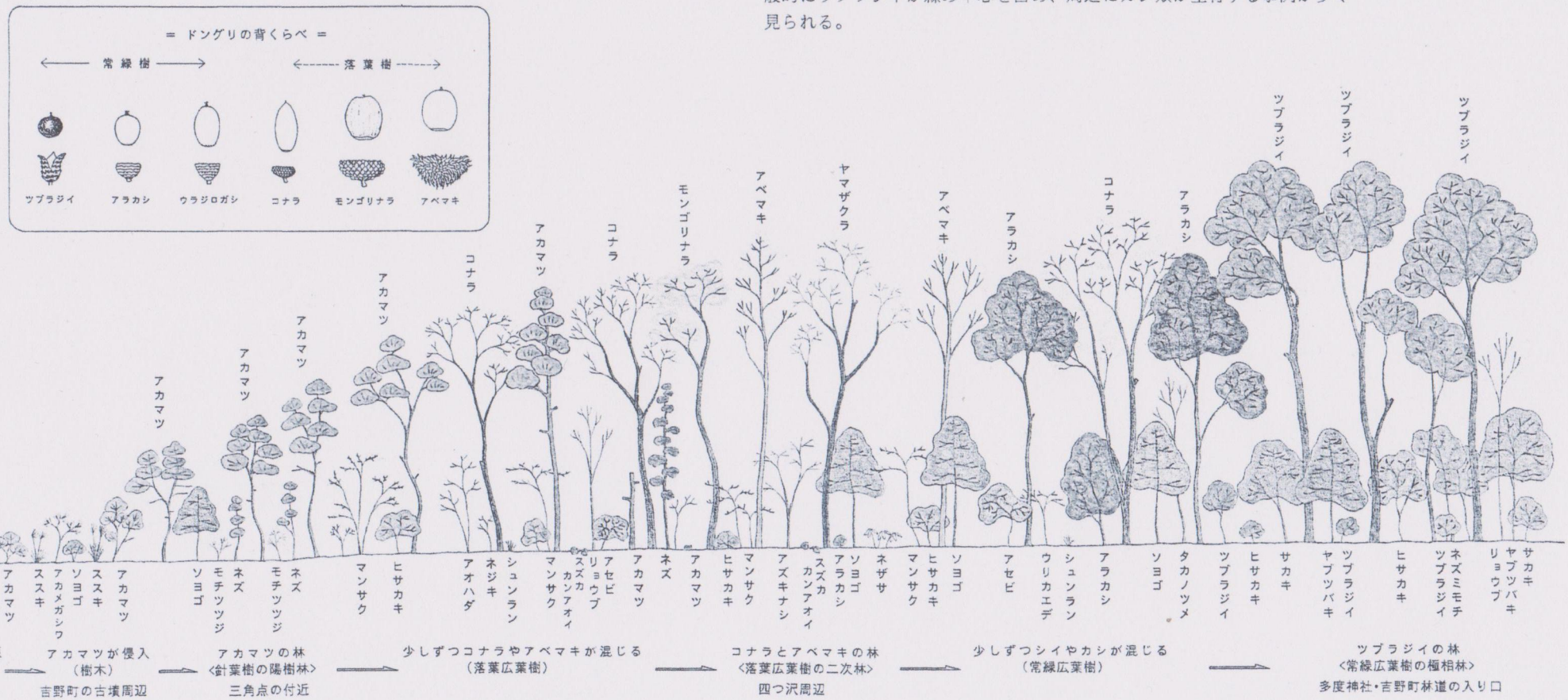
① 森林を完全に裸地化すると、まず風散布型種子の草本植物が侵入する。

② その中に、アカマツ・アカメガシワやモンゴリナラなどの先駆植物的性格の樹木が侵入し、やがてアカマツ林を形成する。

③ アカマツ林となって土壌が安定すると、コナラ・アベマキやヤマザクラなどの肥料分を好む樹木が侵入し、混交林となる。

④ 日陰に弱いアカマツは徐々に衰退し、やがて、コナラーアベマキ林となる。その頃には、日陰に耐えられるアラカシ・シラカシなどのカシ類とツブラジイの実生苗が侵入する。

⑤ 常緑性ブナ科樹木と夏緑性ブナ科樹木の混交林となり、やがて、より日陰に強い常緑樹林に替わり、極相林に達する。この地域の極相林では、一般的にツブラジイが森の中心を占め、周辺にカシ類が生育する事例が多く見られる。